

地域漁業学会

会 報

【発行】

地域漁業学会 事務局
〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20
鹿児島大学水産学部内
chiikioffice@gmail.com
Tel&Fax 099-286-4280
<http://jrfs.org/>

No.99

2016年8月

目 次

1. 第58回大会案内 学会事務局
1) 大分大会へようこそ 2) 実施概要 3) シンポジウムの概要
2. 第57回大会印象記
1) 漁村地域の住民として学会参加を振り返って 今川 恵
2) 地域漁業学会第57回大会印象記：ミニシンポジウムを中心として 玉置 泰司
3. 第57回総会報告 現地事務局
1) 56期決算報告 2) 57期予算計画 3) 学会賞受賞者
4. 事務局便り 学会事務局
1) 個別報告・シンポジウム原稿等の受付について 2) 学会賞の推薦について

1. 第58回大会案内

1) 大分大会へようこそ

ごあいさつ

地域漁業学会第58回大分大会が、10月29（土）30（日）の両日別府市で開催されることになりました。

多くの会員のご参加を心からお待ちしています。

大分県での開催は1982年、1992年に次いで3回目の開催となります。初回は「栽培漁業の経済的諸問題」を、2回目は「漁村活性化の諸条件」をテーマにして開催されました。今回は「地域漁業を支える人材育成」をテーマに大分県の協力を得て開かれます。詳細は山尾先生の企画説明に譲ることにしますが、大分県で唯一の学会員として実行委員長を務めます私が、一貫して求めてきた漁業後継者育成がテーマとなっており、論議の深まりに期待しています。

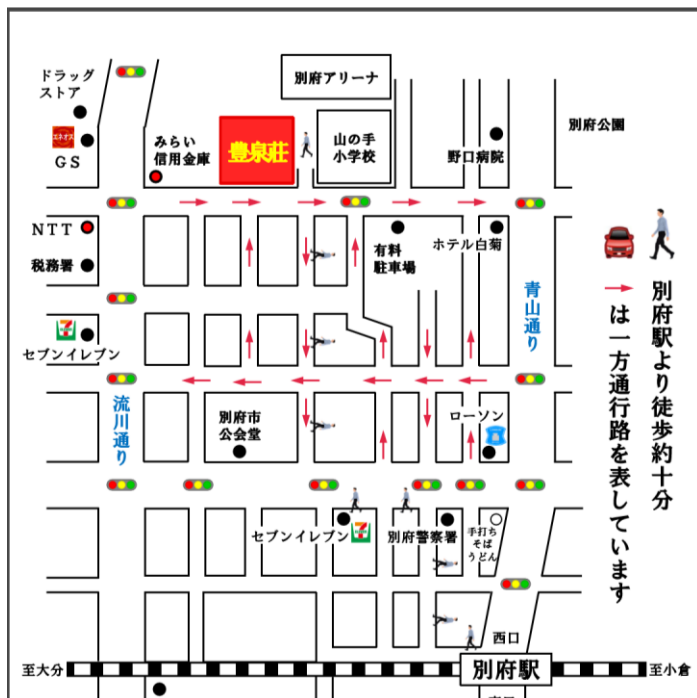
さて、大分県は、温泉の湧出量が日本一であるとともに多種多様な温泉が湧き出ていることから「おんせん県おおいた」を観光のキャッチフレーズとしてPRをしています。学会参加には厳しい日程の先生も多いかと思いますが、ぜひこの機会に大分の温泉に親しんでいただくとともに、関アジ開サバに代表される大分自慢の海の幸を大いに堪能していただきたいと思います。

皆様の元気な顔にお会いできることを楽しみにお待ちしております。

大分大会実行委員長 米田 寛

大分大会会場 別府豊泉荘のアクセス

<http://www.housensou.jp/>



2) 実施概要

(1) 日程

- 10/29 (土) 午前：各種委員会・理事会
午後：合同シンポジウム・懇親会
- 10/30 (日) 午前：個別報告
午後：総会

(2) 場所

〒847-0902 大分県別府市青山町 5-73 別府 豊泉荘
※詳細については、別途案内します。

(3) 参加費

参加費：2500 円（要旨集代込み。個人会員、学生会員ともに同額）。

3) シンポジウムの概要

シンポジウムコーディネーター 山尾 政博

1. テーマ

「地域漁業を支える人材育成－浜のリーダーの役割－」

2. 大分大会シンポジウムについて

人材育成をめぐる課題は様々あるが、第1に、中核となる漁業者（新規就業者を含む）育成をどのように進めるか、第2に、リーダー層を対象にした人材育成のあり方、今後求められる視点は何か、

第3に、本格的に進み始めた外部支援人材の育成がもたらす効果とは何か、であろう。今後、地域漁業が大きく変わることが予想されるが、時代の動きを見据えた人材育成のあり方を議論しておくことの意義は大きい。上記3つを束ねた包括的な視点からテーマを設定することもできるが、大分県で実施する大会であることから、リーダー育成に焦点を絞って議論を進めたい。

(1) シンポジウムの企画

今年度の大会、シンポジウムの開催については、大分県庁関係者のご協力を得て企画が進められている。テーマについても貴重なご意見やご助言をいただいた。

シンポジウムのタイトルは、「地域漁業を支える人材育成」、である。大分県におけるリーダー漁業者育成事業「豊の浜塾」の経験を踏まえて、また、同様な取組を行っている兵庫県大輪田塾関係者のご協力を得て、水産業・漁村の活性化のためにはどのような人材育成の課題があるかを検討することにした。

このシンポジウムの特徴は右に示した通りである。両県の経験交流が行われるとともに、これまでの成果が次の世代の担い手にどう継承していくかを考える。

シンポジウムの企画

タイトル： 地域漁業を支える人材育成
-浜のリーダーの役割-

目的：大分県、兵庫県で実施されてきた担い手、特にリーダー育成活動の経験を踏まえて、水産業・漁村の活性化のためにはどのような人材育成が求められるかを明らかにする

シンポジウムの特徴

- 1) 両県のリーダー人材育成の経験交流、活動の成果の共有
- 2) リーダー育成の経験や成果を若手漁業者、次の世代の担い手にどう継承していくかを考える
- 3) 地域漁業の変化を捉え、人材育成の今後の課題を考える

13

(2) 漁業者、行政、関係機関からの参加者と一体となったシンポジウム

今回のシンポジウムは、大分県庁の全面的なご協力を得て企画・開催される。大分県漁業士会のメンバー（「豊の浜塾」の卒塾生含む）の皆様、漁協を始めとする関係機関からも参加される、開催地一体型の大会である。県には、このシンポジウムを、毎年開催している「大分県水産業の発展に向けた意見交換会」として位置付けていただいた。

例年のシンポジウムの構成とはやや異なる。座長解題を受けて、田和正孝会長を含む関係者から兵庫県大輪田塾の成果を含む紹介が行われる。次いで、大分県のリーダー育成活動の経験と課題が大分県庁、それに漁業者から報告される。それぞれ兵庫県の部、大分県の部、に分けてある。二つの県からの報告を受けて、地域漁業学会の会員と参加漁業者、関係機関の皆様によるグループ討論（テーブル・ディスカッション）を行う。その内容を踏まえて、総合討論を行う。

(3) シンポジウムが目指すもの

このシンポジウムでは、浜のリーダーの育成に焦点をあてた人材育成を取り扱うが、将来的には次のようなことが期待される。第1に、大分県、兵庫県での活動成果が確認され、広く他県に普及されること、第2に、リーダーの育成、人材育成が漁業者や地域関係者によって自律的に行われること、である。

地域漁業学会にとっては、今後、急激な変化が予想される地域漁業構造の再編、市場流通環境の変化、制度改革の進展に対応できる内部人材及び外部支援人材の育成のために、どのような調査研究が必要かを検討するきっかけになると期待される。

(4) シンポジウムの構成

- 1 座長解題 山尾 政博、鳥居 享司
- 2 兵庫県 大輪田塾の成果
司会 田和 正孝
振興基金
漁業者 1 人
- 3 大分県・担い手育成活動の成果、後継者確保の課題
司会 山尾 政博
大分県庁
漁業者（豊の浜塾卒塾生、漁業士会） 2 人
- 4 テーブル・ディスカッション
- 5 総合討論
- 6 コメント 兵庫県・大分県・研究者
- 7 まとめ

2. 第 57 回大会印象記

1) 漁村地域の住民として学会参加を振り返って

今川 恵（太地町立くじらの博物館）

地域漁業学会第 57 回大会にて、数年ぶりに参加・研究発表をさせていただきました。私は 3 年半前に三重大学大学院を卒業してから、「陸の孤島」とも言われる紀南地方の漁業地域で、小さな博物館の職員をしています。総人口約 3300 人、高齢化率約 38%、漁業者はそのうち 100 人足らず（90 年代の半分以上）という小さな町に住み、若者の減少と高齢化を年々肌で感じる中で、果たして今後もこの地域でやってゆこうと考える担い手は残ってゆくのだろうかと思わざるを得ません。

しかしながら、漁業者の一年間の就業サイクルを追いかけると、中心的漁業以外にもナマコ突きやウツボ漁、イカの追い込み漁業、タコツボ漁などの統計では拾えない小さな「周辺漁業」が多いことに驚くことがあります。こういった「漁業を含む小さい仕事がかまごま存在している」という事は、若い人が減少しつつも残っている理由の一つとして、意外と大きいのではないかと日々思っています。その「小さくこまごまとした仕事」の一つとして、今回の報告では、突きん棒漁業を取り上げました。調査を進める中で特に感じたのは、鯨類の行動特性に対する漁業者の理解の深さです。かつては、一日中クジラを追尾して行動を研究したこともあったと言い、海上における長年の鯨類との格闘によって生み出されてきた知見は説得性が大きく、重みを感じずにはいられませんでした。残念ながら報告においてそこまで言及するには至らず、また数年ぶりの研究発表にはいつもとは異なる緊張感があり、内容を十分出し切れなかったのではないかという思いが残ります。しかし、先生方からは有意義な意見を多く頂戴し、実りの多い研究報告となりました。

個別報告やシンポジウムでは、国内外の地域漁業について、多くの学びがありました。末田先生の

近世捕鯨業の研究は、長州捕鯨業と西海捕鯨業の関係性や日本海側捕鯨の特色といった視点から分析をされており、大いに刺激を受けました。岸上先生からは、和歌山県・すさみ町と串本町における都市漁村交流の事例報告があり、県内の交流事業先進地域の動向を詳しく知りたかったのですが、スケジュールの都合上早く帰らざるを得なかったことは残念です。そして、今回シンポジウムで議論された、「地域に根差した生活者の視点から、漁業地域のあり方をとらえなおす」というテーマは、まさに日々の問題意識とリンクするものでした。今振り返っても、意義深く、実りある参加になったと感じています。ありがとうございました。

2) 地域漁業学会第 57 回大会印象記ーミニシンポジウムを中心としてー

玉置 泰司 (中央水産研究所)

10月24日～25日に東広島市内の広島大学生物生産学部で開催された大会に参加したので概要を報告する。二日間とも晴天に恵まれ、広大なキャンパスでは木々が色付きはじめ目を楽しませてくれた。24日は理事会の後、13時からA・B2会場に分かれて一般報告が行われた。各会場6名ずつの報告者が日頃の研究成果を報告した。私はB会場での報告を行った。私自身地域漁業学会での報告は2012年の京都大会以来であり、少し間が空きすぎたと反省している。前大会では18名の一般報告が行われたことと比較すると、6名の大幅減少である。また、学生会員の報告は3名のみであった。もっと多くの学生会員が報告するようになることを祈念したい。

一般報告に続き、ミニシンポジウムが「地域漁業と大学ー地方創生と人材育成の視点からー」のテーマで開催された。コーディネーター天野通子氏(広島大学)の解題によってミニシンポジウムの幕が開いた。地方創生の政策の下、地方の大学では地域志向型教育へ軸足を移し出そうとする動きがあるとして、西日本の四校から報告を受け、運営上の課題や目指す方向性について検討したいとした上で、具体的に議論したい視点として以下の3つが提案された。すなわち、①大学が取り組む人材育成の方向性とは、②地域と大学、継続的な連携の仕方とは、③持続可能な地域志向型教育の仕組の確立に向けて必要なことは、の3点である。4名の報告者からは、広島大学(大泉賢吾氏)、島根大学(伊藤康宏氏)、愛媛大学(若林良和氏)、水産大学校(甫喜本憲氏)の事例が紹介された。文部科学省傘下の3大学はCOC事業によるもので、農林水産省傘下の水産大学校はその所管が示すとおり、設立当初から現場主義の教育を行っていたことで、少し毛色が違った内容であった。4名の報告の後総合討論が行われ、会場の出席者からも様々な意見が出され、当初の予定時間をオーバーして、懇親会開催予定時間ぎりぎりまで活発な議論が行われた。最後に天野コーディネーターより、最初に提示した3つの視点への方向として、①中長期的なもの、②長年のつきあいが必要、コーディネーターが間に入る必要がある、③共通の目標を定めて取り組むべき、と総括された。私のように首都圏に存在する教育機関以外の研究機関に所属しているものにとっては、少し縁遠いテーマではあったが、逆に自分の立場ではどのように地域貢献ということが可能であるのか、考えさせられるテーマではあった。

25日は9時からシンポジウムが「新しい地域漁業の姿を提案する」をテーマに開催された。竹ノ内徳人氏(愛媛大学)の解題に続き、三宅和彦氏(愛媛大学大学院・愛媛銀行)、板倉信明氏(水産大学校)、岸上光克氏(水産大学校)、天野通子氏(広島大学)辰巳佳寿子氏(福岡大学)の5名から報告があった。シンポジウムの紹介については、他の参加者に譲ることとして、筆を置きたい。

3. 第57回大会報告

1) 第56期決算報告

(1) 収入の部

費目	56期予算額	決算額	増減(決算-予算)
前期繰越金	4,752,783	4,752,783	0
会費収入	1,660,000	1,504,000	(156,000)
一般会費	1,500,000	1,420,000	(80,000)
学生会費	150,000	84,000	(66,000)
団体会費	10,000	0	(10,000)
大会参加費	70,000	75,000	5,000
抜刷自己負担金	50,000	0	(50,000)
学会誌販売収入	250,000	188,000	(62,000)
投稿料収入	300,000	90,000	(210,000)
寄付金	0	0	0
雑収入	1,000	104	(896)
著作権	0	55,354	55,354
合計	7,083,783	6,665,241	(418,542)

(寄付金は近藤信義会員からのものである。)

(3) 財産目録

種別	残高
銀行預金	532,587
郵便振替	5,052,240
現金	53,842
計	5,638,669

(2) 支出の部

費目	56期予算額	決算額	増減(決算-予算)
本部事務費	190,000	135,188	(54,812)
通信・郵送費	130,000	87,668	(42,332)
労賃・謝金	50,000	47,520	(2,480)
消耗品費	10,000	0	(10,000)
学会誌作成費	2,020,000	800,496	(1,219,504)
印刷費	2,000,000	800,496	(1,199,504)
労賃・謝金	20,000	0	(20,000)
消耗品費	0	0	0
名簿・会報作成費	0	0	0
理事会運営費	0	0	0
部会費(10000*7部会)	0	6,648	6,648
委員会費(10000*5委員会)	0	0	0
学会賞副賞費	10,000	0	(10,000)
大会準備費	200,000	84,240	(115,760)
(内要旨集印刷費)	100,000	84,240	(15,760)
学術会議等団体活動費			
予備費	10,000	0	(10,000)
小計	2,430,000	1,026,572	(1,403,428)
損金			
次期繰越金	4,653,783	5,638,669	984,886
合計	7,083,783	6,665,241	(418,542)

2) 第57期予算計画

(1) 収入の部

費目	57期予算額	56期予算額	増減(57期-56期)
前期繰越金	5,638,669	4,752,783	885,886
会費収入	1,660,000	1,660,000	0
一般会費	1,500,000	1,500,000	0
学生会費	150,000	150,000	0
団体会費	10,000	10,000	0
大会参加費	70,000	70,000	0
抜刷自己負担金	50,000	50,000	0
学会誌販売収入	250,000	250,000	0
投稿料収入	300,000	300,000	0
寄付金	0	0	0
雑収入	1,000	1,000	0
合計	7,969,669	7,083,783	885,886

(2) 支出の部

費目	57期予算額	56期予算額	増減(57期-56期)
本部事務費	190,000	190,000	0
通信・郵送費	130,000	130,000	0
労賃・謝金	50,000	50,000	0
消耗品費	10,000	10,000	0
学会誌作成費	2,020,000	2,020,000	0
印刷費	2,000,000	2,000,000	0
労賃・謝金	20,000	20,000	0
消耗品費	0	0	0
名簿・会報作成費	0	0	0
理事会運営費	0	0	0
部会費(10,000*8部会)	0	0	0
委員会費(10,000*7委員会)	0	0	0
学会賞副賞費	10,000	10,000	0
大会準備費	200,000	200,000	0
(内要旨集印刷費)	100,000	100,000	0
予備費	10,000	10,000	0
小計	2,430,000	2,430,000	0
次期繰越金	5,638,669	4,653,783	984,886
合計	7,969,669	7,083,783	885,886

3) 学会賞受賞者

2015年の地域漁業学会（広島大会）において、以下のとおり学会賞および中楯賞の受賞が決まりました。なお、柿本賞は該当がありませんでした。

<地域漁業学会賞> 小川 真和子 会員

<地域漁業学会奨励賞(中楯賞)> 佐々木 貴文 会員

5. 事務局便り

1) 個別報告・シンポジウム原稿等の受付について

個別報告を希望される会員は、タイトル、報告者氏名（複数の場合は全員）、所属（同左）、要旨本文を A4 用紙 1 枚（縦置き横書き）に収めた Windows 版一太郎または word ファイルを、メールもしくは郵送で下記へ送付してください。また原稿ファイルとは別に、報告者の読み仮名と、プロジェクター等機材使用の有無をメール本文や別紙でお知らせください。なお、メールによるファイル送付の場合は事務上の行き違いや送受信時の事故を考慮して、送信後 1 日たっても返事がない場合は印刷原稿 1 部を下記へ Fax または郵送してください。締切は 9 月 29 日（木）必着です。お送りいただいた原稿は報告要旨集に収録して配布・販売するほか、地域漁業学会の HP 等に掲載・公表される事があります。ご了承ください。

なお、シンポジウム報告者の方は、枚数制限はありませんが同様の内容を 9 月 29 日までに申込先へ送付してください。また、コーディネーターより指示がある場合はそちらにしたがってください。

<申込先> 〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部地域漁業学会要旨集担当
Fax. 099-286-4280 電子メール : sakuma-eco@nifty.com

2) 学会賞の推薦について

「学会賞」、「学会奨励賞（中楯賞）」および「学会功労賞（柿本賞）」の推薦がございましたら、被推薦者の氏名、同勤務先、推薦理由、その他必要事項を文書にて、10 月 19 日（水）必着で下記宛にお送りください。なお、締切後の推薦については学会本部事務局までお問い合わせください。事情により推薦を受け付けることもあります。

<送付先> 〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20 鹿児島大学水産学部 地域漁業学会
Fax. 099-286-4280 電子メール : chiikioffice@gmail.com

地域漁業学会 <http://jrfs.org/>

本部事務局 〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20
鹿児島大学水産学部内
Tel&Fax 099-286-4280
担当 佐久間美明 chiikioffice@gmail.com
郵便振替 : 01750-0-83886
銀行振込 : 鹿児島銀行 鴨池支店 普通 3354886